

〔鳥取県〕

流しびなの里 もちがせ ～もちがせ流しびなの館のご紹介～

小谷 雄二（経営支援課 課長補佐）
kodani-yuji@meti.go.jp
TEL 082-224-5658



新しい年が始まりました。山陰は冬まただ中ですが、季節を先取りした話題をご紹介します。

桃の節句の時期にはまだ早いですが、鳥取市用瀬町には古くから旧暦の3月3日に行われる「流しびな」の行事があり、春の風物詩となっています。この民俗行事は、昭和60年、鳥取県民俗文化財に「もちがせの雛送り」として指定されています。「もちがせの流しびな」は、男女一対の紙雛を棧俵にのせ、菱餅や桃の小枝を添えて、災厄を託して千代川（せんだいがわ）に流します。無病息災で1年間幸せに生活できますように願う情緒豊かな民俗行事です。（もちがせ流しびなの館HPより）



（もちがせ流しびなの館HPより）

この用瀬町に伝わる伝統行事である「流しびな」を紹介する資料館が「もちがせ流しびなの館」です。建物は、室町時代（約700年前）の京都金閣寺をモチーフにした大型木造建築で、昭和63年に完成しました。展示室には、江戸時代をはじめ各時代の雛人形、雛飾り、加茂人形、御所人形など、江戸時代から今日までの雛800余体が鑑賞できます。

ひな人形の展示の他に、もちがせの流しびなやひな祭りの歴史が紹介されています。流しびなの製作体験もでき、自作の流しびなを流す体験も出来ます。



もちがせ流しびなの館（鳥取市観光コンベンション協会HPより）

「流しびな」はもともと物忌みの行事で、紙などで人形（ひとがた）を作り、これで体をなで、災いをその人形（ひとがた）にうつして川や海に流す行事から生まれた風習です。この行事がいつの頃から始められたのか、文献等の記録が少なく定かではありませんが、「源氏物語」に源氏の君が祓いをして人形（ひとがた）を舟に乗せ、須磨の海へ流すという著述があり、雛流しそのものの原型は、遠く平安時代にさかのぼるといわれています。（もちがせ流しびなの館HPより）

今年の流しびなは4月2日(水)に行われます。平日ではありますが、当日訪れた方もひな流しが出来るようですので一度訪れてみてください。また、第4回「お雛さまコンクール」が開催されており、お雛様やひな祭りにまつわる作文、エッセイ、絵手紙、短歌などを2月11日まで募集しています。ご興味のある方は、応募しては如何でしょうか。



もちがせ流しびなの館HP <http://nagashibinanoyakata.jp/>